

施策・基本事業評価表

作成日 平成 24 年 7 月 2 日

基本目標No.	5	基本目標名	豊かな自然と共生したまち
施策No.	35	施策名	水と緑の保全と活用
主管課名	環境安全課	主管課長名	小林 義夫
関係課名	企画政策課、農林水産課、埋没林博物館、水族博物館		

施策が目指すすがた	<ul style="list-style-type: none"> ・山から海までの自然環境が保全されています。 ・森林のもつ保水能力やCO2の吸収など多面的機能が維持・増進されています。 ・多様な生物が生息し、生態系が保全されています。 ・豊かな自然を体感し、親しむ場が整備されています。
-----------	--

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担や地域等への期待など	市 事 ・ 業 民 所	<ul style="list-style-type: none"> ・水と緑を守る活動に参加し、協力をします。 ・節水等に協力します。 ・野生生物との共生のための広葉樹の植林などに参加します。
	行 政	<ul style="list-style-type: none"> ・森林の保全など生態系のバランスを保つための施策を行います。 ・水と緑の保全のための啓発を行います。 ・自然保護ボランティアの育成を行います。
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関・団体(県、森林組合、ボランティア団体、企業、農協、漁協等)と連携して森づくりを行います。

施策の成果達成にあたっての現状と課題	<p>本市は、豊かな自然に恵まれ、多種多様な動植物が生息・生育しています。また、一連の水循環が市域の中で完結している特有の自然環境があります。しかしながら、土地開発の拡大や経済活動の増大により、生態系に変化が見受けられます。そのため今後は、森林の保全など生態系のバランスを保つための取組みが必要です。</p> <p>また、良好な水資源や自然公園などの豊かな環境を守るため、市民や訪れた人々が自然を体感し、親しむ機会を増やしていく必要があります。</p>
--------------------	--

施策No.	35	施策名	水と緑の保全と活用
-------	----	-----	-----------

基本事業名①	事業内容(活動内容)									
	水循環の保全	森林などの保全による水の浸透・涵養能力の保全、海の藻場などを含む水辺地の保全・再生を図り、健全な水循環の保全を図ります。								
①に属する代表的な事務事業	事業内容(活動内容)									
環境基本計画の策定	将来に亘る環境保全のため、環境基本計画を策定します。									
水資源調査研究事業	水循環、水の特質などの調査研究を行います。									
水循環プロモーション事業	水遺産の選定、マップの作成などを通して、魚津の水循環を啓発・普及します。									
水の学び舎事業(再掲)	博物館等を活用してのモニターツアーや体験事業など水資源について学ぶ場を提供します。									
基本事業①の目的【意図】	豊かで清らかな水環境で生活できる。									
成果指標名	単位	21年度実績	目標値(上段)及び実績値(下段)						27年度(中間目標値)	32年度(最終目標値)
水循環が保全されていると思う市民の割合	%	-	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	66.0	80.0	
			61.0	62.0	63.0	64.0	65.0			
			-	51.7						
基本事業名②	事業内容(活動内容)									
森林の整備・保全	森林のもつ保水能力やCO2の吸収など多面的機能を維持・増進するため、適正な広葉樹と針葉樹の混交林の整備や森林病害虫防除などを推進します。また、里山の持つ環境保全機能維持のための整備に取組みます。									
②に属する代表的な事務事業	事業内容(活動内容)									
水と緑の森づくり事業	里山林の整備や混交林の整備を推進します。									
森林病害虫等防除事業	カシノナガキクイムシの侵入によりナラ類が枯れるなど被害が出ており、枯損木の除去等に努めます。									
里山・森林状況の実態調査(森林整備計画の策定)										
基本事業②の目的【意図】	森林が保全され、野生生物と共生しています。									
成果指標名	単位	21年度実績	目標値(上段)及び実績値(下段)						27年度(中間目標値)	32年度(最終目標値)
豊かな自然環境が保全されていると思う市民の割合	%	52.1(H22)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	60.0	65.0	
			53.4	54.7	56.0	57.4	58.7			
カシノナガキクイムシ被害木の防除数	本	840	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	1,000	0	
			867	893	920	947	973			
			860	888						
基本事業名③	事業内容(活動内容)									
生態系の保全	魚津の山岳地帯から沿岸にいたる全域の動植物の生息・生育調査を継続的に行うとともに、調査結果を公表、情報を発信するなど生態系の保全に努めます。									
③に属する代表的な事務事業	事業内容(活動内容)									
魚津のレッドデータブック作成	多様な生物保全のため、希少生物の実態調査を行います。									
魚津の動植物調査	野生生物の調査を行い、今後の自然環境保全施策に反映させていきます。									
生物多様性地域戦略	豊かな生物の多様性を保全し、地球環境の保全のため生物多様性地域戦略を策定します。									
基本事業③の目的【意図】	将来に亘る生物多様性が保たれています。									
成果指標名	単位	21年度実績	目標値(上段)及び実績値(下段)						27年度(中間目標値)	32年度(最終目標値)
年間生物調査回数	回	30	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	36	36	
			31	32	33	34	35			
			30	20						
基本事業名④	事業内容(活動内容)									
自然の活用と公園の整備	自然公園などの豊かな環境を守るとともに、訪れた人々が憩い、感動できる場所にするため、自然公園内の景観保全に留意しながら施設を整備し、自然解説員と連携するなど親しみやすい公園にします。									
④に属する代表的な事務事業	事業内容(活動内容)									
憎ヶ岳県立自然公園整備事業	県立自然公園に指定され、今後更なる自然保護に努めながら休憩所や登山道などの整備をします。									
県定公園整備事業	県定公園に指定され、かけがえのない自然環境の保全に努めます。									
自然解説員養成事業	自然保護の重要性を認識してもらうことを目的に、自然解説員を養成します。									
洞杉周辺環境保全事業	洞杉周辺の環境整備を行い、将来に亘る自然環境保全のための対策を行います。									
基本事業④の目的【意図】	自然に親しむ機会が増え、より多くの人が身近に自然を感じています。									
成果指標名	単位	21年度実績	目標値(上段)及び実績値(下段)						27年度(中間目標値)	32年度(最終目標値)
自然を体感し満喫することができると思う市民の割合	%	25.8	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	30.0	35.0	
			26.5	27.2	27.9	28.6	29.3			
			25.8	35.6						

施策の成果達成にあたって優先的に取り組むべき主な取組み

施策No.	35	施策名	水と緑の保全と活用
-------	----	-----	-----------

23年度の 評価結果 (基本事業 の成果を考 慮し記載)	1. 施策(基本事業)の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること)
	ア. 成果水準の推移(成果水準がここ数年どのように推移しているかを中心に記述)
	・水は有限で貴重な資源であり、その保全が重要であることから、平成21年度から富山大学と共同で魚津市の水循環、水の特質等についての調査・研究を実施している。また、地下水利用事業所等で構成している魚津・滑川地域地下水利用対策協議会と共同で、休耕田を利用した地下水涵養事業を実施している。 ・自然公園のうち、国立公園は昭和9年、県定公園は平成4年以来16年度まで面積の増減はなく3,585haであったが、平成17年度に片貝川上流域2,290haが県定公園に指定されたことにより、5,875haに増加しました。また、平成23年度に、僧ヶ岳・駒ヶ岳県立自然公園が県から認定を受け、(魚津区域分A=2,709ha)現在、8,584haに増加しました。
	イ. 近隣他市との比較(成果水準が近隣他市と比較してどうであるかを中心に記述)
	・水と緑の保全対策については、成果を数値として表すことが難しく、現在把握していません。 ・23年度市民アンケート調査では、水循環が保全されていると思う市民の割合 51.7%、また、豊かな自然環境が保全されていると思う市民の割合 46.5%となっており、半数近い人が水と緑の保全対策がなされていると感じています。 ・新川広域圏では、黒部川扇状地を中心とした水博物館構想に基づき、フィールドツアー等が行われています。
	ウ. 住民期待水準との比較(成果水準が住民が期待していると思われる水準と比較してどうであるかを中心に記述)
	・水も緑も貴重な資源であり、今後、多くの市民が満足できる施策を行っていく必要があります。 ・自然の活用と公園の整備に関して満足している市民の割合は、平成22年度27.7%、平成23年度35.6%と上昇しています。
	2. 施策の成果実績に結びついているこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括 (ここ数年の間、施策及び基本事業の成果向上に貢献してきた主な事務事業の取り組み内容を中心に記述)
	【水循環の保全】 ・地下水保全のため、魚津・滑川地域地下水利用対策協議会で協議し、休耕田の面積を拡大しながら地下水涵養を行いました。 ・平成21年度から引続き、水循環について富山大学との共同研究を行うとともに、「魚津の水循環」という冊子を作成しました。 ・地域資源を生かしたプロジェクトチーム(H21～22)から「魚津の水循環」を生かした事業提案があり、「魚津市水循環遺産」の決定を行いました。 【森林の整備・保全】 ・「水とみどりの森づくり税」を活用した水と緑の森づくり事業に取り組みました。 ①地域や生活に密着した里山の再生を、地域住民と協働で推進する「里山再生整備事業」を実施しました。 ②放置・過密人工林、風雪被害林など、針葉樹と広葉樹の混交林に誘導する「みどりの森再生事業」に取り組みました。 ③カンノナガキクイムシによる枯損木を除去し、被害の拡大に努めました。 【生態系の保全】 ・前年度に引き続き、市内河川や沿岸域の水生物調査を行いました。 【自然の活用と公園の整備】 ・平成22年度、自然保護や保全の観点から駐車場の整備を行いました。また、片貝川流域の豊かな自然を生かした共生とふれあい、観察、保護、保全の方策として築造した片貝山ノ守キャンプ場の施設管理・整備を図りました。
	3. 施策の課題認識及び24年度の取り組み状況(予定) (23年度末で残った課題、既に24年度に取り組んでいること、又は取り組むこととしている予定を記述)

部会評価 (協議結果、 今後の方針 及び課題等 について記 載)	※施策の重要度※	最重点
	<p>・本市は、豊かな自然に恵まれ多種多様な動植物が生息・生育しています。また、当市特有の自然環境があります。しかしながら、土地開発の拡大や経済活動の増大により生態系に変化が見受けられますので、今後は、森林の保全など生態系のバランスを保つための取り組みを進めていきます。</p> <p>・良好な水資源や自然などの豊かな環境を活用し、市民や訪れた人々が自然を体感し、親しむ機会や場を提供していきます。</p>	

経営戦略会議における 施策の課題 及び方針	<p>・良好な水資源や自然などの豊かな環境を活用して、市民や来訪者が自然を体感し、親しむことができる機会を提供します。</p> <p>・土地開発の拡大や経済活動の増大により生態系に変化が見られることから、森林の保全など生態系のバランスを保つための取り組みを推進します。</p>
-----------------------------	--